

くすのき

北九州市立葛原小学校
校長 二宮 利之

★登下校の様子から…★

「ふうっ、やっと着いた。」

雨の日に、傘をさして登校してきた一年生が、下足場で安心したように、つぶやきます。

傘をさして、長い時間を緊張して歩いてきたことでしょう。安全に到着してくれて、感謝です。

葛原小学校の学校内・登下校の様子を見て、三週間目になります。特に学校の周辺には、狭い通学路で、段差がない歩道があり、危険だなあと感じます。時折見かけのが次のような姿です。

○話に夢中になって、三列・四列で歩いて、決められた歩道からはみ出している。

○広がりすぎて、段差のある歩道から降りて車道を歩いている。

○後方から自動車が近づいてきているが、話やふざ合うことに熱中して、気がついていない。自動車が、ゆっくり徐行していますが、ふざけあって押されたり、友達から何かされることを避けようとして車道の方に不意に動いたりすると、思わぬ事故につながりそうです。

また、歩道と反対側を歩いている子がいたので理由を尋ねると、「暑くてたまらなかったので、日陰のあるところを歩いていた。」とのこと。一理はありますが、「でも、歩道を通ろうね。」と注意しました。

他にも、カエルやカナヘビ、ヘビなどを見かける時期になり、先日、「校長先生、カエルがいました。ペットにするから捕まえにいらしてきます。」

と大盛り上がり子どもたちとも出会いました。このときは、校内での出来事でしたが、学校帰りに、畑や田んぼや公園に寄り道をして、危険なことにならないように願っています。

子ども達の様子を見て、いろいろとコミュニケーションをとることは楽しいのですが、安全面は、大人として気を遣ってあげたいと思います。

○学校内での取組

学校は学ぶ場だという緊張感を子どもなりにもっており、「きちんとしなくては…」と行って行動してくれるので、様々な場面でも安全が保たれています。ところが、学習規律にしても、生活マナーにしても、「学校ではきちんとできているのに、一歩学校を出るとなかなかねえ…」という声がよく聞かれるのも、一般的なことです。

ましてや、学校内で習っていないこと、学校でできていないことは、当然学校の外や地域でもできません。

校内での通行に関して言えば、

- ①右側通行を常に意識しているか。
- ②廊下一杯に広がって歩いて、回りに迷惑をかけていないか。
- ③危険だから、通行禁止・進入禁止になっているところを平気で通っていないか。

などの点で、意識を高めることが必要のようです。学校では、登下校の安全に対する指導とともに、①から③の点を、子どもたちに意識させ、守ることができるように、指導を継続的に行います。

そして、「学校内でもできているんだから、学校の行き帰りも、同じように気をつけよう」という意識につなげたいと思います。

○ご家庭に協力をお願いしたいこと

学校内・学校周辺については、教職員・地域の方々が力を合わせ、見守っていきたいと思います。

危険な歩道は、改修のお願いを毎年しますが、法律の関係や緊急車両の通行を想定しているため、改修できないところがほとんどです。

また、校区内の隅々まで、目を行き届かせるには難しい面もあります。

- ・田や畑、あぜ道など通ってはいけないところ
- ・マムシなど、危険な生き物がいるような場所
- ・段差がなく、歩道が明確でないので、広がって歩くと危ない道 など

自宅近くで、上記のような場所がありましたら、保護者の皆様にも、子どもさんへの注意喚起を行っていただくとともに、マナー・気をつけるべきことなどについて、子どもさんと話し合っていたけると助かります。よろしくお願いします。

自転車の安全運転について

気候もよくなり、子どもたちが自転車で校区内を移動している姿をよく見かけます。葛原小学校区は、交通量が多い道路がたくさんある地区です。ご家庭でも、安全な自転車の乗り方について、繰り返し指導していただくと助かります。学校でも、安全啓発ビデオ等を見せる等の手だてをとることを検討していきたいと思います。

また、被害者になるだけではなく、今は加害者になる場合も考えられます。自転車事故で、相手を死亡させた場合、一億円近い金額が保護者に賠償請求された事例も起こっています。



被害者にも、加害者にもならないように、学校・家庭が力を合わせて、繰り返し指導していくようにしたいと考えています。

また、もしもの場合に備えて、自転車保険等への加入も、ご検討ください。